

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = 記録的な落ち込みを見せた前回からの変化は？

2020年4月20日

新型コロナウイルスによる感染被害が広がる欧州。ここに来てようやく流行ペースが落ち着く流れとなり、オーストリアなどが段階的にロックダウンの解除を始めていますが、ほとんどの国では解除の方針が示され始めたところでロックダウンが続いており、厳しい状況が継続しています。

そうした中で、当たり前ではありませんが欧州経済はかなり厳しい状況に。3月の欧州PMI（購買担当者景況感指数）は軒並み歴史的な落ち込みを見せました。

とくに外出規制や店舗の閉鎖などがともに響くサービス業の落ち込みがひどく、ユーロ圏全体、独、仏などの非製造業PMIが過去最低水準を更新。英国のサービス業PMIも過去最低水準を下回りました。

フランスは先週13日に外出制限やレストランなどの営業停止措置を来月11日まで延長することを発表。英国も16日にロックダウンを少なくとも3週間延長すると発表しました。ドイツやイタリアがオーストリアに続いて段階的にロックダウンを解除する方針を示しているものの、まだ少し先の話。鈍化傾向が見られた新規の感染者数も16日発表の数字ではイタリア、フランス、スペイン、ドイツで前日から増加。特にスペインは直近1週間で最多の新規感染者数となるなど、依然として情勢は不透明。景況感はかなり厳しい状況が続くと見込まれています。

そうした状況を受けて23日に発表される4月のPMI速報値の予想値と前回値の一覧です。

16時半に発表される独製造業PMIは予想39.0、前回値45.4(速報時45.7)。

同非製造業PMIは予想30.0、前回値は31.7（速報時34.5）

17時に発表されるユーロ圏製造業PMIは予想40.0、前回値44.5(速報時44.8)

同非製造業PMIは予想25.0、前回値26.4(速報時28.4)。

17時半に発表される英CIPS製造業PMIは予想45.0、前回値47.8(速報時48.0)

同非製造業PMIは予想30.0、前回値34.5(速報時35.8)。

いずれも3月からの悪化が見込まれています。

製造業に関しては生活必需品の生産などは維持されていることもあり、非製造業に比べるとやや落ち込みが緩いですが、今回も悪化見込み。ロックダウンが続くと製造業の景況感悪化も進んでいくとみられます。

欧州だけでなく米国もトランプ大統領が16日に経済活動再開に向けたガイドラインを示すなど、希望が見えてきたところだけに、景況感の厳しい状況を突き付けられることが相場へどこまで影響してくるのが気になるところ。弱い数字自体は想定済みも、予想をさらに超えて悪化が進むようだとリスク警戒の動きにつながりそうです。

その他の注目材料としては、22日に発表されるトルコ中銀政策金利があります。昨年7月の総裁交代以降、会合ごとに金利を引き下げているトルコ中銀。先月は新型コロナウイルスによる景気鈍化対策もあり、定例会合を前倒して1.00%の利下げを実施。昨年夏の利下げ前には24.00%あった政策金利はついに10%を割り込み、9.75%となっています。

今回もさらに利下げが見込まれており、予想の中央値は9.25%。トルコの消費者物価指数は3月時点で前年比11.86%となっていますので、実質金利はすでにマイナス圏ですが、さらに利下げを行うことで、実質金利のマイナス幅がさらに拡大する見込みです。

とはいえトルコ国内での感染者数が7万人を超えるなど、厳しい状況が続く中で、景気対策の姿勢を緩めることは難しく、予想通りもしくはそれ以上の利下げが見込まれるところ（中央値以上の利下げを見込む動きも多く見られます）。

トルコリラ円は先週2018年8月のトルコショック時の安値15円52銭を割り込むなど売りが目立っていますが、新興国通貨売りの流れも加え、もう一段の下げもありそうです。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チエースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。